

「炉ばたセイ談」の生い立ち

炉ばたセイ談会・初代会長 桐野 二郎

「炉ばたセイ談」は「炉ばたセイ談会」（入来武家屋敷茅葺門邸）が一年に一回（九月）発刊する機関誌です。

「炉ばたセイ談会」は作家・歴史家であった故人来院貞子氏（一九三三—二〇〇一）が所属する鹿児島ペンシルクラブで平成十三年に提唱、同クラブ代表の相星雅子氏ほか数名の会員がこれに賛同、他に新聞・テレビ関係者、高校・大学の教職員ほか地元の元町長などが加わっていただき、入来武家屋敷の囲炉裏辺で「セイ談」を語り合う会としてスタートしました。

「セイ談」のセイは聖、清、正から醒、政、性まで、つまりの話題は問わずお互いの蒙を啓こうという程度の、堅苦しくない会という意味です。

会は当初武家屋敷の一軒をお借りしてスタートしましたが、行政側の制度変更により借家制度が廃止された後、本拠を茅葺門邸、即ち入来院重朝、貞子ご夫妻宅に移して今日に至っております。機関誌「炉ばたセイ談」は入来院貞子氏が編集長となり平成十七年秋に創刊、第八号まで手掛けていただきましたが、貞子氏が同二十三年に急逝された後を承けて中西喜彦氏（鹿児島大学農学部名誉教授）が第七号以後を担当、今日に至っております。

本誌の内容は創刊号編集後記にありますように硬軟、左右なんでもありますが、執筆者には一言言を持つ会員も多いだけに、入来武家屋敷群の一角から発信されるこの小冊子が、いささかなのとも文化的な刺戟となり得ればと念じております。

「炉ばたセイ談」生みの親といってもいい故人来院貞子氏の願いも、祖霊の瞑るこの入来の地でせせやかながら、一隅を照らす灯を点したかったのではないのでしょうか。

（「炉ばたセイ談」第七号より転載。桐野二郎氏は平成二〇〇九年二月に永眠されました。）

※バックナンバーは、鹿児島県立図書館の郷土資料コーナーで読むことが出来ます。